

長寿医学研究所（一九九三年～）

一九八〇年代後半に、厚生省が新たに提唱した中間施設としての老人保健施設は、福祉村にも必要だと考えましたので、福祉村病院の隣りに、一九九〇年に建てました。

これを機会に、ずっと前からぜひやりたいと考えていた認知症の研究を行うのに必要な剖検室と研究室を、老人保健施設（ジュゲム）の地下に作りました。

認知症の診断は非常に難しく、確実な診断は、脳の解剖所見を見なければできないとされています。

そこで、福祉村病院の医師達が、認知症の診断を正しく下せるようになるためと、更に、認知症がなぜ発生するのか、どうしたら治療ができるのかを解明するためにも、脳の解剖がどうしても必要ですから、剖検室と研究室を作ったのです。

解剖する資格をお持ちの田辺先生を、はるばる九州からお招きし、そして、浜松医大の近藤先生、名市大の幾野先生、船橋先生、岐阜医大の山階先生らにも加わっていただいて、認知症の研究を始めました。

更に、名市大岡田教授のご指導で、名市大より研究員が赴任され、様々な基礎研究も行われました。

一九九二年に当院の創立三十周年を迎え、なにか皆様のお役に立つことをしたいと色々考えました。

第二次大戦後、先進国だけではなく、世界中の人々が長生きできるようになり、未曾有の高齢社会が実現しようとしてますが、老年医学は、ごく最近始まったばかりですから、未だ解明されていない分野が、非常に広く残されております。

そこで、世界中の人々が、健康で長生きするのに役立つ研究が必須だと考えましたので、創立三十周年記念として、長寿医学研究所を作ることにいたしました。

建設にあたっては、名市大の岡田教授のご指導を受け、ラジオアイソトープ利用の実験室、癌の免疫療法のための無菌室、冷暖房完備の実験動物舎などを備え、どの大学の研究室にも引けを取らない、最新、最高の研究設備を設けました。

更に、当院では、おかげ様で、ご家族の皆様のご理解が大変に深いために、高度な研究のできる新鮮な剖検脳を、非常に多く揃えることができました。

脳をご提供いただいたご家族の皆様の尊いご意志にお報いするためにも、医学の進歩のために最も有効に活用する義務が我々にはあると考え、福岡大学の山田教授のご指導もいただいて、ブレインバンク（一九九四年）を設立し、内外の多くの大学や研究所と提携して、脳の共同研究を行うことにいたしました。

それから十一年後の二〇〇五年に、ブレインバンクネットワーク設立準備のワークショップが東京で開催されましたので、これに参加し、更に、二〇〇六年に行われたベニスで

の第一回国際ブレインバンク会議にも、当院の堀長寿医学研究所長と赤津長寿医学研究所副所長が参加し、国際的にも共同研究の輪を大きく広げました。

私どものブレインバンクは、民間病院のものとしては、現在世界一の研究成果をあげております。

現在、さわらび会の中で、最も誇りにできるものは、長寿医学研究所とブレインバンクです。

長寿医学研究所のガンの免疫療法は、石黒先生が担当され、着々と成果をあげていらっしゃいます。

詳細は別稿をごらん下さい。